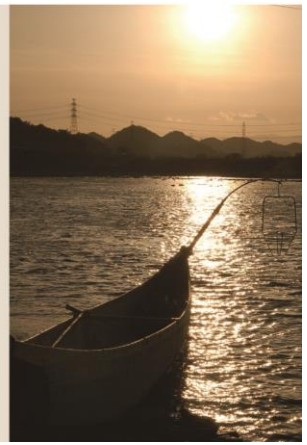




Rotary 関ロータークラブ

2019-20 年度国際ローターテーマ RI 会長 マーク・ダニエル・マローニ
 「ローター：ローターは世界をつなぐ ROTARY: ROTARY CONNECTS THE WORLD」
 2019-20 年度 関ロータークラブ会長 テーマ
 ～私ができる社会貢献をしよう～ 54 代会長 土屋佳久

■ 会長 土屋佳久 ■ 副会長 木村 聡 ■ 幹事 尾崎嘉彦
 白田龍司



■ 例会：火曜日 12:30

■ 例会場：関市本町 6-20 大垣共立銀行関支店 2F

■ 事務局：関市平和通 7-10-25 アメリカ 2F

本日のプログラム 第 2562 回例会 2019 年 11 月 26 日(火)



「職業奉仕とは何か」

国際ローター第 2630 地区 職業奉仕委員 北川宥智様



前例会の記録・第 2561 回 11 月 19 日(火)12:30

「地区大会の報告」
 酒向徳享さん・栗倉晋吾さん

- ◆ 開会点鐘
- ◆ 「我らの生業」斉唱
- ◆ 会長挨拶



本日は最近良くないと言われて
 います日韓関係について、そんな
 事はないですよ。という事を地
 区大会の話を変えながらお話し
 ます。大会には特別招待者として
 韓国の数名がお見えになってい
 ましたが挨拶などはございませ
 んでした。先週配布されました

「ローターの友」に「揺るぎない友情」と題し
 て第 15 回ローター日韓親善会議の様子が掲載
 されています。その中には 2011 年の東日本大震
 災時に約 6,100 万円の義援金をはじめ、韓国ロー
 タリアンから多くの支援を受けた事への感謝や、
 この会議を開催するにあたり「私たちは情勢がい
 かに厳しくてもローターの果たすべき平和の
 努力は強くなければならないとの信念の下に、雑
 音を無視し準備を続けてまいりました」又、ロー
 タリーは何があっても平和を願い、そして平和に
 向かって力強く邁進するんだ。と考えた心を、こ
 れからも大切にしていきたいと思っている。と訴
 えています。その他にも青少年の交流事業の様子
 や数クラブの交流も載っています。地区大会では
 インターアクトクラブ代表スピーチで韓国へ行
 った際の大歓迎を受けた事や充実した日々の様
 子も話してくれました。テレビ、新聞などの報道
 では日韓関係の悪い状況が多く伝えられていま
 すが、その裏(中々報道されない部分)ではこの
 様に民間交流が継続して現在も行われている事
 が大会を通じて改めてわかった所もありました。
 今回大会に参加した事で、その他にも大変素晴ら
 しいお話も沢山聞け、何か得をしたような気分で
 帰ってまいりました。来年は三重県ではなく岐阜

で開催されます。地区協議会も含めて会員の皆様
 の多くのご参加を次期会長の木村さんに代わっ
 てお願いいたします。

- ◆ 委員会報告
- ◎ 出席委員会 委員 林昇
 会員 50 名中 出席 21 名 出席率 46.67%

◎ ニコボックス委員会 委員 山田一成
 会長・副会長・幹事の皆さん・・・地区大会出席
 いただいた方々お疲れ様でした。本日はご報告をい
 ただく栗倉さん、酒向さん宜しくお願ひいたします
 堀部、後藤、林(昇)、長尾、福田、山田の皆
 さん・・・酒向さんが栗倉さん 地区大会の報告を疲
 れ様です。よろしくお願ひいたします。

栗倉晋吾さん・・・先日、地区大会に参加させて
 いただきました。参加に伴い準備、段取りをして下
 さった土屋会長をはじめ役員の方々ありがとうござ
 いました。また行き帰りの運転をして下さった
 尾崎幹事ありがとうございます。大変充実
 した時間をありがとうございます。今日は一生懸
 命発表をいたしますのでよろしくお願ひします。

伊佐治啓司さん・・・11 月の関ロータークラブ
 コンペで優勝させていただきました。ゴルフ会員
 の皆様には忘年会へのご参加をお待ち申し上げ
 ております。12 月 8 日(日)午後 5 時から「だ
 いえい」さんです。12 月のコンペは 8 日、美濃関 CC
 で行います。よろしくお願ひ申し上げます。

本田昇司さん・・・今日も例会食の御注文ありが
 とうございます。IGM の報告頑張ります。

◆ 幹事報告

◎ 年次総会のご案内

日時：2019 年 12 月 17 日(火) 12:30

場所：例会場

◆ 「IGM の報告」本田昇司さん

10 月 21 日(火) 関市下有知
 「こうせん」にて、ホスト 三輪
 さん、リーダー兼ローター情報
 の後藤さん、その他の出席者とし
 て酒向さん、猿渡さん、山田さ



ん、私、本田の6名にてIGMが開催されました。IGMのお題は、「災害」。このところの台風による被害は甚大で、お亡くなりになられた方々、被災に遭われた方々がおられます。まずは一刻も早い復興と亡くなられた方々のご冥福を心よりお祈りいたします。私たちの住む関市もこの異常気象による想定以上の雨量や風などによる災害も起こりうるという点から、後藤さんの持参されたハザードマップを見ながら自分たちの会社や自宅の避難場所や浸水の危険度、土砂災害の起こりうる地域などを確認し家族や職場の従業員たちの安全確保等の認識をさせていただくことができました。そして、地球温暖化という世界規模の問題や、少子化問題まで様々な話、意見が飛び交いとても勉強になりました。後藤さんから、災害の対策でもある堤防について、大変興味深いお話がありました。水害を防ぐためにつくられた堤防ですがガードレールを設置してあるところを見たことがない。何故かという、ガードレールの支柱を打つと、すき間から水が入りそこから堤防が壊れてしまうからつけられないということでした。なるほどと思う話がたくさんある中、お酒も進み楽しくあつという間に時間が過ぎていきました。すばらしいお店でのおいしいお料理と酒をおなかいっぱいいただき、ホストの三輪さんありがとうございました。また、勉強になる話をたくさんいただき、後藤さんありがとうございました。改めて関ロータリークラブで入会させていただきよかったなという感謝の気持ちでいっぱいです。これからもよろしくお願ひいたします。

◆「地区大会の報告」酒向徳享さん



11月16日ロータリー地区大会、三重県津市会場は津市産業・スポーツセンター又の名称をサオリーナ、津市出身のレスリングメダリストの吉田沙保里から引用したとの事、新しく、とても大きな会場でした。参加したメンバーは、三役の土屋会

長、木村副会長、臼田副会長、尾崎幹事、補助金小委員会委員長として堀部さん、地区委員として長尾先生、粟倉さん、酒向、このメンバーで10人乗りのレンタカーで尾崎さんの運転で会場に向かいました。尾崎さんは帰りも同じように運転手をしていただきありがとうございました。現地に到着し、受付を済ませたところに、マイカーで直接みえた西本さんも合流しました。まずは三重大学吹奏楽団の演奏でオープニングです。その後辻ガバナーの点鐘で開会！全員が起立したまま、会場画面には国旗が映り、中華民国（台湾）国歌が流れ、大韓民国（韓国）、タイ王国と国旗が映り替わり、国家が流れていきました、これは各国からの来賓があったためなのですが、ちょっと驚きのハプニングがありました。気が付いた方は周りにはみえなかったと思うのですが、タイと韓国の国歌が間違っ入って流れてしまっていたようで、あとからガバナーも壇上で深くお詫びしておりました。引き続き物故会員の紹介、この時、壇上画面に常川さんの写真が映った時、とても切なく思

いました。来賓の紹介、挨拶、と進む中で、三重県の鈴木英敬知事の祝辞は、とても活舌もよく、頭の良さと言うのですか・・・、素晴らしい祝辞でした。開会の最後、辻ガバナーの挨拶は、手にタブレット、ピンマイクをつけ、一か所にとどまることなく、壇上を右に左に行ったり来たり、ユーモアも混ぜながら、人柄がよくわかる個性的な挨拶でした。その後RI会長代理、マーク・ダニエル・マローニー氏の代理のバスターガバナー、チェン・チェロン氏の講演、続いて、韓国、タイからみえたガバナーの挨拶言葉は母国語でお話しされるので、お話の内容はステージの画面に映されました。その後休憩をはさみ、記念講演、テーマは『令和』改元の画期的な意義、講師は所功氏 京都産業大学名誉教授で日本の法学者、歴史学者です。出身は揖斐川町との事、75歳です。新元号令和が発表されてからは令和の意味の解説としてテレビにも出演されたようです。講演の内容はテーマである新元号『令和』のお話です。新元号『令和』は万葉集からのことばであると過去の元号は中国の古い書籍から出典（選び出されていた）との事、今回の元号の出典は、日本の国書、古事記、日本書紀、万葉集から案として出典され、新元号となった『令和』は万葉集にあること、令月、清く風和らぐ、令月とは（良好な時節）、令月、時和かにして気きよし、令、これは善なり、和はやわらぐ、和は麗しい精神との意味もあるようです。『令和』はその文字が合わさった素晴らしい元号であるとお話しされました。次に大変旬な話題 令和元年10月22日、即位礼正殿の儀のお話もされました。昭和から平成に変わる時代は、大変悲しい、突然の事でしたが、平成の時代から令和の時代へは、日本国では過去にない異例の事らしいのですが、平成の天皇のお気持ちを日本国家がくみ、令和へと時代が変わるのですが、平成の天皇は常に国民の幸せと世界の平和を願われ、その心を御自身のお姿でお示しになってきたこと、令和の天皇も同様に国民に寄り添いながら、憲法にのっとり、日本国民統合の象徴としてつとめを果たすことを誓います。この言葉は日本国民にとって、とても素晴らしいことであるとまだ最近の出来事であり、大変興味深く、講演を聞くことができました。講演の後は、表彰、感謝状贈呈等があり、終わりの頃、留学生のスピーチがありました。オーストラリア、ベトナムからの留学生、アメリカに留学していた高校生の報告、まだたどたどしい日本語、一生懸命な喋りがとても初々しく感じられました。その後閉会となったのですが、予定の時間が30分延長となる濃い内容でした。あとこの第2630地区の大会のテーマ『総天然色』、そのままの名前の総天然色食堂、ガバナーの強い思いで、全員参加で全員一緒に『いただきます』と声を上げての、夕食の会が行われました。我々はこれが今夜の一次会としてスタートし、引き続き津市の夜を楽しみ、町の景気にもほんの少し貢献してまいりました。

◆「地区大会の報告」粟倉晋吾さん

地区大会2日目の報告をさせていただきます。昨日と同じくサオリーナにて9:00より開始いたしました。セントヨゼフ女子学園高等学校・中学校・ハンドベル部によるセレモニーがありました。安室奈美恵の「HERO」米津玄師の「パプリ



力」ZARDの「負けないで」ゆずの「栄光の架橋」その他にも大河ドラマ「天地人」や「篤姫」のテーマ曲がハンドベルで演奏されました。透き通るようなハンドベルの音色が会場を包み込むと、少し早いですがクリスマスを連想させてくれました。開会、点鐘に続き台湾、韓国、タイの国歌演奏。「君が代」斉唱。「奉仕の理想」斉唱と進みまして、ホストクラブ会長挨拶では津RC会長増田冬樹様のあいさつがありあした。本年度 国際ロータリー会長マーク・ダニエル・マローニ氏のテーマが「ロータリーは世界をつなぐ」であり、ロータリー創設者ポール・ハリスはロータリーの礎は“つながり”である。見知らぬ街で見知らぬ人達と“つながる”ことを創設の最大の理由としていたとお話をされました。この後、辻ガバナリー挨拶の後に国際ロータリー会長代理 朱 健榮 (チュウ・チェンロン) 様のアドレスがありました。(アドレスとは聴衆に向かっての公式のあいさつの言葉、演説、講演という意味で、決して住所の意味ではありません。地区大会に参加して初めてアドレスという言葉にこんな意味があると知りました。) チュウ・チェンロン会長代理は台湾の国際ロータリー第3523地区の初代ガバナリーを務められ現在国際ロータリー会長代理を務められています。マローニ会長が今年1月に発表した2019～20年度テーマ「ロータリーは世界をつなぐ」を実践していく為の戦略計画として4つの優先事項を説明してくださいました。「参加者の基盤を広げる」「より大きなインパクトをもたらす」「参加者の積極的なかわりを促す」「適応力を高める」の4つですが、当然、台湾語でのスピーチでしたので翻訳した原稿をいただきましたが翻訳の関係だと思いますが、これが読めば読むほど言葉のつながりが微妙にヘンだったり文章が前後してるような感じでなかなか理解しにくい個所もありましたので、私が感じた感覚も交えて説明、報告をさせていただきます。まず、「参加者の基盤を広げる」つまり会員増強です。現在のロータリアンの年齢構成は若年層が少なく、青年・壮年のロータリアンが多い状況で世界の人口構造と同じように推移している状況だそうです。つまりは高齢化が進んでいるということです。ある新聞記事によるとアメリカで2035年には毎日1万人が65歳になると予想されているそうです。より多くの優れた若い世代をロータリーに参加させるよう努めなければいけないとのことでした。会員増強を行うことは次の「より大きなインパクトをもたらす」にも繋がってきます。我々の行っている奉仕活動やプロジェクトをより大きなものにするにはマンパワー、人が必要だということです。会員一人一人が社会のため、世界のために100ドルだけ寄付をすればロータリーの奉仕は成長し、プロジェクトはより大きな影響を与えるということです。より大きなインパクトをもたらす為効率的な方法として“公共イメージの大切さ”についても説明をされました。ロータリーの公共イメージづくりの目

的は一般の人々にロータリーの目的とプロジェクトを理解してもらい関心を寄せ、応援して頂くことです。前向きな公共関係を築きロータリアンが有利に活動できるよう力強いPRをしていくことです。ある世界的な調査によると、世界の人々の4割がロータリーについて聞いたことが無い、4割の人は名前しか聞いたことが無い、残りの2割の人がロータリー活動を知っているという結果だったそうです。世界の人口が75億人ですから、ロータリーの公共イメージを高めることができれば現在122万人のロータリアンをさらに増やすことができるだろう。ということです。次に、「参加者の積極的なかわりを促す」についてですがこれは年長者と若い世代との関りや、ロータリー活動と家族との関わりです。ロータリー活動と家族の時間が競合することなく互いに補完しあうような関係を目指し、家庭を受け入れるような雰囲気づくり、家族と奉仕活動を両立しより良い関係を構築するということ。ただ、これと次の戦略2つに関しては明確な説明があまりみあたらず、私なりの解釈になりますが、私はこうとらえました。広い目で見れば世界との関わり、身近なところではメンバー同士の関わり、人と人が関わり、つながることだと思えます。今回の地区大会への参加もそうですし、IMや近隣クラブとも積極的に関わりを持つことが大切なんだろうと感じました。また、国際ロータリー・ロータリー財団は世界の健康状態を改善すること、教育への支援、貧困を救済することで世界理解、親善、平和を達成することに関わってきました。現在ポリオ根絶活動はあと一歩のところまで来ています。しかし19年前にポリオ根絶を宣言したフィリピンでさえ9月に2例の感染患者が明らかになりました。これは我々への警告です。私たちはもう一度使命を胸に刻み、ポリオ撲滅を実現するためにさらに力を注ぎ続けなければいけないとおっしゃられ、世界の平和と幸福のために関わり続けることが大切なんだと感じました。最後4つ目になりますが「適応力を高める」先ほどの高齢化とも関係してきます。伝統的な西洋諸国のロータリークラブが解散し、新興経済国より新しい文化を持つ新しいロータリークラブが誕生して、より多くの女性会員が入会し、後に続いてローターアクトクラブとインターアクトクラブの成長もみられます。女性ロータリアンの数は昨年より約12000人増加しました。変わりゆく環境の中で新たなビジョンに向けて行動を起こす時が来ています。ポール・ハリス氏も「その使命と目的を達成するために、ロータリーはいつでも可能な限り進化し、改革しなければいけません」と言っておられ、柔軟に対応し新たな風をどんどんと入れていくことが大切である理解いたしました。4つの戦略以外にも2020年6月にハワイで開催される国際大会への参加も呼びかけられております。世界中の様々な国、様々な人種、様々な言語のロータリアンが同じ理念の為に一堂に会することは大変大きな感動を生み、深い感動を感受することが出来るでしょう。また、ハワイの国際大会にご家族を連れ出せばさらに深い喜びを与えてくれるでしょう。ともおっしゃられました。12月15日までに登録をすると早割があるそうです。ぜひ、ご検討ください。最後に、ロータリアンは一体誰ですか？ロータリーは一体何

ですか？私たちは120万人の隣人・友人であり地域のリーダーです。私たちは世界で地域社会で持続可能な良い変化を生むために手を取り合っています。ロータリーが際立つのは、それぞれが異なる見識を持ちそれぞれの視点から多角的なアプローチをし、様々なアイデアを寄せ合うことで世界や、地域社会が抱える問題に対し独自の解決策を見出すことが出来ます。責任と情熱も持って気力溢れる持続可能な変化をこの第2360地区から世界に発信してください。メッセージを下さり締めくくられました。次に大会特別委員会報告及び大会決議採択が行われました。関RCからはロータリー財団部門 補助金小委員会 委員長 堀部哲夫様が紹介されました。大会決議第1号から11号まで採択されましたが主だった内容にだけ触れさせていただきます。大会決議第5号 2020年6月6日から10日アメリカ・ハワイ州ホノルルにて国際大会を開催いたします。大会決議第7号 2020-21年度地区大会は、高山中央ロータリークラブをホストクラブとして、2020年11月7日8日に高山市において開催します。その他の大会決議に関しましてはホームページに掲載されていると思いますのでご興味のある方はご確認ください。予定ではこの後に休憩だったのですが、辻ガバナーから郡上RC大畑さんという方へのサプライズ記念表彰がありました。この大畑さんは1979年に60歳でロータリーに入会され現在100歳を迎えられ、2100皆出席を継続されている現役のロータリアンです。自分の足で立ち壇上に上がられると100歳とは思えないはっきりとした口調で力強く挨拶をしてくださいました。1919年大正8年生まれ、先の大戦では中国に6年ガダルカナルに2年出兵されたそうです。その時に5発の銃弾を受けられたそうです。戦後74年が経ち、100歳を迎えておられますが実際に戦争・戦場を生き抜いた大畑さんは会場中に力強く訴えられました。世界中で国籍、人種、民族、宗教、文化の違い、又は貧困から人々は争いを行います。これは地球上から無くなりません。先の大戦で我々は植民地支配をされたアジア諸国の解放のため、祖国日本のために戦いました。“人命は地球よりも重い”という言葉がありますが、実際、我々兵士の命はチリや埃よりも軽く掃き捨てられました。とおっしゃり、戦争の辛さ、苦しみ、人々が争うことへの憎しみのような感情を涙ながらに訴えられました。そして大畑さんはこう続けられました。我々は、ロータリーが提唱する人類の幸福、人類の平和これが至極当たり前の世界になるよう務めなければなりません。また明日からの例会に夢をもって取り組んで行きたいと決意を新たにされておられました。聞いていた我々は大畑さんの熱い言葉に引き込まれ、感動し目頭が熱くなりました。“人命は地球よりも重い”という言葉は福田赳夫内閣総理大臣がダッカ日航機ハイジャック事件で発せられた言葉ですが、大畑さんにとって仲間が銃弾に倒れていく様はこんな生易しいものではない。過去、国や政府は我々兵士の命を軽んじたではないか！と訴えているように思いました。現在、戦争体験をした方はどんどん減ってきています。まして、戦場で戦われ生きて帰国され、元気でお話ができる方は殆どいらっしやらないだろうと思います。もし、可能であれば私も含め、今の中学生

や高校生にも聞いて貰いたいと思いました。余談ですが、大畑さんはお蕎麦屋さんだったそうで、長生きの秘訣は蕎麦にあるのかもしれませんが、脂っこい食事やスナック菓子ばかり食べるのではなくヘルシーな物を食べなければいけないなと思いました。休憩を挟み、歌手・女優でもある倍賞千恵子さんの講演がありました。大変素敵な歌声を披露して頂き、また“男はつらいよ”の朗読をしてくださり、大変すばらしい講演でした。また、公演の途中では挙手する場面がありまして、周りに促され手を挙げたところ私一人だけでしたので指名して頂き、名前を紹介しましたところ「栗倉さん」と呼んで頂ける光栄にも預かりました。また、堀部さん、辻ガバナーは倍賞さんの大ファンという事で大変感動しておられました。いよいよ地区大会も大詰めを迎えまして、次期への誓いでガバナーエレクト 高山中央RC 釧田廣喜様の紹介・挨拶。大会の鍵伝達と次期開催地クラブ会長挨拶と続いていきました。次回地区大会のテーマは「“わ”の感動をin高山」です。“わ”の意味はロータリーのマークも歯車で輪の形をしています。また日本人が大切にしている和の心、おもてなし。そしてわびさび。来年は東京オリンピックも開催され、オリンピック（五輪）も5つの輪。第2630地区が一つの輪になれるようにと様々な思いが込められた“わ”となっています。と紹介がありました。またガバナーノミニに伊勢中央RC 浦田幸一様を選出されました。今大会においては入場口や休憩コーナーでポリオ募金が積極的に行われており、二日間で553,676円+10ドルの寄付が集まったことも併せて報告させていただきます。こうして地区大会は盛大・盛況のうちに閉会となりましてその後、大昼食会ではご当地グルメ、鯛鮓や津餃子、松坂牛のサイコロステーキ、松阪牛コロケなどをお腹いっぱい頂き会場を後に致しました。今回地区大会への参加に際しまして土屋会長をはじめ、木村さん白田さん尾崎さんそして事務手続きなどして下さった伊佐地さん、そして一緒に楽しく充実した時間を過ごしてくださいました堀部さん、長尾先生、酒向さん大変ありがとうございました。尾崎さんにおかれましては行き帰りの車の運転ありがとうございました、お疲れ様でした。私にとりまして、初体験ばかりでした。メンバーの方と泊りで出かけること、もちろん地区大会へ参加すること、初めて聞くロータリーの言葉。ガバナーノミニやローターアクトクラブ、インターアクトクラブなどいろいろ勉強になりました。入会3年未満の方が義務出席になっている理由も参加してよく分かりました。次回大会は高山です。温泉もあるでしょうし、美味しい物もたくさんあると思います。メンバー同士つながりを深める絶好の機会になると思います。次回大会も参加したいと思います。ぜひ皆様も参加して関ロータリークラブそして第2630地区を盛り上げていきましょう。

次例会のご案内 12月3日(火)12:30
「率先励行～青年会議所のまちづくり運動～」
関青年会議所 理事長 小島祐治様
担当：会場監督